

小型無人機ドローンに関心を持つ中津市議の有志は、市内大貞のダイハツ九州アリーナで研修会を開いた。市議、市関係者ら約40人が参加。実用化と法整備が進むドローンについて学び、操縦体験もした。

産業用ドローン1機を所有し、今年から原野・建物火災後の調査などに活用している市消防本部が取り組みを説明。市消防署ドローン隊の松原良治さん(40)が模範飛行を見せた。

市議らは、ドローン撮影クリエイターズ協会(京都府)の会員らの指導で操縦。法規制などの講義を受け、救急、防災、行方不明者捜索などへの活用の可能性を探った。

研修会世話人の相良卓紀市議(61)は「ドローンは撮影のイメージが強いが、いろいろな可能性がある。実際に体験し、ルールを学ぶことでこれからの活用方法を考えていきたい」と話した。

### 中津市議有志らが研修会

## ドローンの可能性探る



中津市消防署員のドローン模範飛行  
中津市大貞のダイハツ九州アリーナ

(2017年4月24日付朝刊ローカルワイド)

- ① 記事によると、中津市ではドローンはすでにどんな活用をされていますか？

### 火災後の調査

- ② 市議会議員さんたちは、どんなことにドローンを活用できたらいいかと考えていますか？ 記事を参考に考えましょう。

### 救急、防災、行方不明者の捜索など

- ③ 皆さんなら、どんなことにドローンを活用してみたいと思いますか？ また、その際に気を付けなければいけないことはどんなことでしょうか？

物を届けたり、地域の見守りなどにも活用できそうですが、住む人や通る人がびっくりするような飛ばし方をしないよう気を付けなければいけませんね。他にも自由に考えてみましょう。